

持続可能社会への取り組み

点検の不動産利活用

一般財団法人 日本不動産研究所

第33回

葉っぱビジネスは知られていないだろうか。この葉っぱビジネスは「いろいろ」と言われる日本料理に添える季節の葉っぱや花、山菜などを栽培、出荷、販売等を行うビジネスで、高齢者や女性により支えられている徳島県上勝町の主力産業だ。18（平成30）年7月に発行された「上勝町SDGs未来都市計画」によると、約200件の農家が葉っぱビジネスを営んでおり、年間売り上げは約2億6000万円になるそうだ。今回は上勝町が実施してい

960年代頃からミカン栽培に取り組んだものの、1981年の大寒波で町内のミカンの木が全滅。新たな産業の創出に向けた取り組みを模索する中で、上記「いろいろ」ビジネスを農家4件、売り上げ100万円からスタートしたという。現在の上勝町の人口は1501人と四国で一番少なく、県内一高齢化（高齢化率約52・83%）が進行している（人口、高齢化率とも20年12月時点）。前置きが長くなったが、上勝町は、03年に「ゼロ・ウェイスト」を掲げ、ペットボトル、紙パック、缶

- ④ 学び交流できる場所を目指すステーション内配置図
- ⑤ 20年5月開業の宿泊施設。美しい情景を未来に継承する取り組みを来訪者に伝える



高齢化率50%超の町が取り組むSDGs 徳島県上勝町

リサイクル率80%超を達成

「ゼロ・ウェイスト」とは、無駄や浪費をゼロにすることを言い、20年までに焼却・埋め立て処分をなくすことを目標として、リサイクルできる物の分別を徹底してきた。

取り組みは徹底的に

町内にはごみ収集車がないため、町民が各自でごみをゴミステーションに持ち込むよ

瓶等は町民が各自で洗い、きれいな状態にしてごみ出しをする徹底ぶりだ。また、この「ゼロ・ウェイスト」は、使用可能ではあるものの、持ち主にとって不要となった物が持ち込まれ、必要な人が無料で持ち帰ることができるとしている。更に、「ゼロ・ウェイスト」を体験できる宿泊施設も設置し、美しい上勝町の情景を未来に継承する取り組みを来訪者にも伝えている。

生ごみは各家庭にコンポスト、または電動生ごみ処理機が設置（町内の普及率は約98%）されており、ごみの発生が最小限になるよう工夫されている。「ゼロ・ウェイスト」宣言の理念に基づき、ごみを出さない、資源を浪費しない、環境汚染や環境破壊を引き起こさない意識を町民全員で共有することにより、リサイクル率約80・7%（環境省による一般廃棄物処理実態調査の18年度調査結果。同調査での徳島県全体では約16・6%）が達成できており、町民1人当たりのごみ排出量は全国平均の約半分という結果に結び付いている。

山林に囲まれたゴミステーション



ステーションはリユースの拠点



（徳島支所、不動産鑑定士・石森慎吾）